

MECCだより

武蔵野・多摩環境カウンセラー協議会広報紙 第13号 2007年3月

もくじ

巻頭言・06年は如何でしたか? 高橋 博良

<平成18年度活動報告>

「環境活動リーダー研修講座」のための情報交換会報告 川真田 直之

小平市環境省エネ相談会実施状況 泉 浩二

平成18年度EA21地域事務局東京中央 審査人勉強会 泉 浩二

ECU(環境カウンセラー全国連合会)5周年記念事業報告 松島 正

新会員紹介 小網 一祐・水野 縉

巻頭言・06年は如何でしたか?

高橋 博良(理事長)

昨年12月と1月は記録的な高温だったようです。新年、大寒、節分、立春(春節)...暦の通りに季節は...春嵐・突風、アメリカの低温・大雪、オーストラリアの大干魃・青草がなくなり牛肉高騰必至? 世界的異常気象=温暖化、もう止められないかも、少しでも抑制したいのが炭酸ガスです。温暖化ストップの決め手とは言えませんが一助であることは確かでしょう。

「自治体イニシアチブプログラム」は八王子市で2年目を経過しました。葛飾区、中野区は城北・杉並の協議会が受け持ちMECCはお手伝いでした。3年目の今年は2~3の自治体に加わり忙しくなりそうです。

「我が家の環境大臣」は内部でテストラン実施中ですが、更に検討して下期には消費展などに開示宣伝開始が出来るか? 課題です。

「井の頭池 神田川・調査と活動」に対しては東京都などから数々の表彰を受けました。活動に対する助成金、ライオンズクラブからの寄付、亜細亜大生の手伝い申し出などがあり、活発な活動が展開されると期待できます。

「環境教育」は事業所対象講習会、指導者養成講座などを実施しましたが、市民・青少年対象は手薄で、検討の余地を残しました。

「地域事務局東京中央」の運営は順調でした。運営委員・事務所当番・判定委員などなど支援体制は万全でした。目下、4月事務所移転・家賃高騰が悩みの種です。

「東京連合」は専門部会の委員が決まり、発足が待たれます。今年も会費徴収はありませんでした。

その他、いろいろありますが紙面の都合もあり、次の機会に譲りたいと思います。



<平成18年度活動報告>

「環境活動リーダー研修講座」のための情報交換会報告

川真田 直之(副理事長)

MECCは、地球温暖化防止に向けた活動やその他の環境活動のリーダーを志す人達のために、「座学から実践活動までを一貫して指導する研修講座」を開催することにしました。このために、これまで練馬区、板橋区、杉並区、武蔵野市、日野市で活動してこられた6名のリーダーの方々にお集まり頂き、5名のMECCのメンバーがご意見をお聴きする情報交換会を開催しました。本報告はその概要です。

出席者は何らかの養成講座を受講された方が多かったが、最初からリーダーを志していた訳ではありません。何か始めたいとの思いから様々な取組をはじめ、時間が経過するにつれ、信頼関係・自信・人との広いつながり・能力のアップ等を深めて現在に至っています。それには忍耐強さ、責任を全うする態度、継続する意志が非常に強く要求されることが分かりました。

出席者は自治体と何らかの形で関わって活動を

行ってきた方が多く、自治体の環境行政への注力の仕方も様々で、今後の活動を行うときの取り組みかたに対し地域特性を十分考えた対応が必要だとのこと。また、長期的な継続で子供達のごみ分別排出、環境学習交流や工業高校生の家電修理等が時代を変える効果が大きいとの報告がありました。

研修会の方法に関し、MECCが計画している実践活動まで含めたような研修会がこれまで少なく、環境学習講座を受けた方が実践活動に進めない状態との話があり、この研修講座の方向が間違っていないと認識しました。また、環境カウンセラーの活動として、実践活動の段階で研修者にアドバイスや実地支援することが大きな役割と指摘されました。

その他、色々な局面で必要となる有意義なアドバイスをたくさん頂き、また出席者相互の面識や情報交流が得られ、今後の活動に役立つ会であったと、出席の皆様にご挨拶いたします。

環境活動指導者研修講座 受講生募集のお知らせ

受講希望者は葉書、FAX、またはメールで、お名前、ご住所、電話番号、生年月日、興味のある環境分野のテーマを3つまで記入し、以下の宛先にお送り下さい。

〒187-0045 東京都小平市学園西町1-24-3

川真田 直之 宛

FAX: 042-332-5152

Email: nkawamata@jcom.home.ne.jp

・締め切りは平成19年4月13日(金)

<スケジュール>

- ・4月28日(土) 13:00~18:00
自己紹介、講義「リーダーの心構えについて」「専門分野の応援の求め方」等
- ・5月12日(土) 13:00~18:00
テーマ設定と計画策定
- ・5月26日(土) 13:00~18:00
計画の内容発表と評価

*場所「あんさんぶる荻窪」(荻窪駅徒歩3分)
その後、グループによる実践活動に入り、翌年2月に発表、修了式。



小平市環境省エネ相談会実施状況

泉 浩二

小平市環境省エネ相談会は小平市環境部環境保全課の事業として今年度より始められました。事業者の省エネ等環境経営に関する専門家としてMECCのメンバー(石田、川真田、藤野、泉)が交代で市役所会議室に詰め、平成18年6月より平成19年3月まで毎月1回(午後の4時間)計10回行われています。

これまでに、4事業者5回の民間事業者の環境経営相談(廃棄物処理業、製造業等)及び市役所の環境

取組「エコダイラオフィス計画」に関する相談を行っています。特に市役所の取組については、計画(P)、実行(D)の後、確認(C)、見直し(A)が重要であることを指摘し、さらに、市の率先垂範により、民間の取組を促すことが重要であることを強調しております。

この事業は来年度も継続されるようなので、広報を強化し民間からの相談が更に活発になるようにしたいと考えております。

平成18年度EA21地域事務局東京中央 審査人勉強会

泉 浩二

審査人勉強会は、杉並、MECC、城北の3つのEC協議会で運営するEA21地域事務局東京中央の支援者を対象とし、EA21審査人の実践的能力の向上を図る目的で実施しており、あわせて東京中央支援者と地域事務局の現状報告・運営上の意見交換等情報交流も行っています。

勉強会はMECCの泉、東京城北の白井が東京中央事務局の協力の下、具体的内容、話題提供者、日時等の決定・運営を行っています。本年度の開催は、原則的に2ヶ月に1回・2時間を年間6回実施し、毎回

20数名(MECCからも10名弱)が参加されました。内容は基礎編として、「審査マニュアルと審査書類作成」をテーマに2回、応用編として「主な4業種(廃棄物処理・製造・印刷・建設)での審査の実際」をテーマに4回実施しております。話題提供者として、3つのEC協議会の審査経験者をお願いし、審査の視点からの応用的・実務的な内容となるように心がけています。

来年度も引き続き実施予定ですので、関係者のご協力をお願いいたします。

ECU(環境カウンセラー全国連合会)5周年記念事業報告

松島 正(ECU業務部長)

平成8年9月に「環境カウンセラー制度実施規定」が制定され、昨年9月に10周年を迎えました。

また環境カウンセラー全国連合会(以下ECU)は同時期に発足5周年を迎えました。ECUは、個々の環境カウンセラー(以下EC)が集まって地域単位に組織化された地域協議会を、全国的に統括した会です。平成13年9月に設立総会を開き、当初は16団体でスタートし、MECCも設立メンバーに加わりました。

平成15年10月には内閣府認証のNPO法人になり、現在では北海道から鹿児島まで全国で31の協議会が加入しています。

昨年9月21日(木)に東京都北区滝野川会館で、EC

制度創設10周年とECU設立5周年を記念してオンラインフォーラムを開催し、環境省総合環境政策局・西尾局長の祝辞、東京学芸大学・小澤教授の基調講演、パネルディスカッションとともに、環境大臣表彰者を含めて功労者の表彰式を行いました。参加者は100名を超えて盛況でした。いっぽう記念式典の内容を含め、EC制度及びECUの活動経緯などの貴重な資料を整理して、記念誌を本年3月に発行する予定で準備中です。

ECUでは5周年を契機として財政基盤を確立するとともに、地域協議会に未加入の人を合わせると4千人に達するECの力を結集して環境保全活動を展開し、更なる飛躍を目指しています。



オープンフォーラムでのパネルディスカッション(2006.9.21)

新会員紹介

町田市在住の小網 一祐です。あれこれ、お世話になっております。振り返ってみますとオイルショックにより工場閉鎖の憂き目に遭ったりの以降、あれこれ体験し、直近約10年はISO審査の仕事をやっています。

葛飾の寅さんの如く日本全国あちこち歩き回るのも悪くはないのですが、やはり天国に行くためには地域貢献をこころがけ、「閻魔様に捕まえられない様にする」のが良いと思うようになりました。宜しくお願いいたします。

昨年7月、MECC会員になりました水野 繕です。私は、今年の8月に定年退職する今話題の「団塊の世代」です。通信機器メーカーでは、事業部でめっき、塗装、プリント基板の生産技術や本社環境推進部で製品アセスメント、グリーン購入、ISO14001導入などの全社展開を担当しておりました。また、ISO審査登録機関のJQAに4年間の出向経験があります。私は、EA21審査人として、現住の西多摩郡瑞穂町と近辺エリアでの中小企業の環境経営活動に少しでも役に立てればと思います。

編集後記にかえて：「二十四節気と温暖化」

春分を基点に太陽の黄道を15度ずつ24等分し、太陽がそれを通過する時点で、その季節にふさわしい名前を付けたという「二十四節気」は、中国でつくられ日本でも取り入れられました。また、「雑節」は、補助的につくられた日本独自のものです。

お正月から春にかけての二十四節気と雑節（*印）を紹介しましょう。

小寒（1月5日頃） / 大寒（1月20日頃） / 節分*（2月3日頃） / 立春（2月4日頃） / 雨水（2月19日頃） / 啓蟄（3月6日頃） / 彼岸*（3月21日頃） / 春分（3月21日頃） / 清明（4月5日頃） / 穀雨（4月20日頃） / 八十八夜*（5月2日頃）

しかし、巻頭言にもあった「温暖化」が進むと、こうした季節感は大きく外れてしまうのでしょうか。便利さや効率性などを追いかけてきたその先に、季節の変化を表す美しい言葉や、季節の変化そのものの実態が失われてしまうということに、そこはかたない喪失感を感じます。(Y.N)



これまでもMECC会員紹介は断続的に行われてきていますが、特に、余り活動に参加されていない方も含め会と結ぶ場として会員紹介のコーナーを生かすようにしたら良いと思っています。(K.I)

発行者：NPO武蔵野多摩環境カウンセラー協議会(MECC)事務局

180-0023 武蔵野市境南町1-30-1 &FAX :0422-31-7200

電子メール：QWK11724@nifty.ne.jp

ホームページ：http://www.mecc.or.jp/